

# 射水更生保護

発行・編集

射水保護司会  
会長 棚元理一  
TEL 0766-52-2341  
〒939-0274 射水市小島700-1  
大島社会福祉センター内



## 第56回社会を明るくする運動



# 『練習帆船「海王丸」の 実習生と共に!!』

今年度は、射水市誕生で四月から保護区変更に伴い、新湊・射水両保護区の統合し新しい射水保護司会がスタートしました。お互いスクラムをくみ、一体的な立場で、七月十七日(海の日)に第56回社会を明るくする運動を海王丸パークで実施しました。

あいにくの梅雨前線の北上に伴い大雨が降る中ではありましたが、保護司と更生保護女性会の皆さん53名は、横断幕をはり、のぼり旗をもち、街頭宣伝のティッシュペーパー・シャープペン、小冊子等を会場の人達に、ひと声かけて手わたしました。

また今回はじめて、練習帆船「海王丸」の実習生120名と教官の方々に船上で街頭宣伝の品々を渡し啓発活動に参加していただきました。このように犯罪非行の防止と更生の援助のため、地域住民の理解と参加を求めることを重点目標として「ふれあいと対話が築く明るい社会」の標語のもと、私達は統合により、窓口を広め未来を担う青少年のために、地域、行政、企業の協同スタイルで、保護司関係者が心を合わせて、大きく羽ばたきたいという思いで宣伝活動をくりひろげました。

川口記

# 「射水更生保護・創刊号」 によせて

富山保護観察所長

加藤 修 一



本年四月、これまで  
の新湊、射水保護  
区が統合して新たな  
射水保護区が発足と

なり、このたびの広報誌「射水更生保護」  
の創刊を心からお祝い申し上げます。

平素は、更生保護事業に対しまして、  
それぞれのお立場で御尽力を賜わり、  
厚く御礼申し上げます。

ところで近年、子供たちなど弱者に  
対する凶悪な犯罪が相次ぎ、多くの人  
たちが子育て等に不安を感じています。  
このような中において非行や犯罪に対  
する地域の専門家としての保護司の存  
在は、これまでも増して重要なもの  
となり、保護司への期待も大きくなっ  
ております。

今般、立ち上げられた新たな射水保  
護司会は、組織も大きくなりました。  
射水保護司会では、これからの活動方  
針として、専門部会制度を活動の中心  
に推進していくとことです。総務部  
会を始めとして、研修部会、地域活動  
部会、協力組織部会、学校部会、広報  
部会がそれぞれの立場で、また他の部  
会との連携を図り、更には地域各団体  
とも連携を深め、地域の実情に呼応し  
ながら地域における犯罪防止等のネッ

トワークを構築していくなど、大きな  
期待をしているところであります。  
地域にあっての保護司会であり、充  
実した活動を祈念しております。

## 射水保護司会の 発足によせて

射水市長

分家 静 男



日ごろ、保護司の  
皆様には人間愛と社  
会奉仕の精神をもっ  
て、非行や罪を犯し

た人の立ち直りの支援と、地域の犯罪  
予防活動に献身的に取り組んでおられ  
ますことに心から感謝を申し上げます。

また、輝かしい歴史を誇る新湊・射  
水の両保護司会が、本年4月26日をもっ  
て統合され、新生「射水保護司会」を  
発足されましたことは、地域の安全と  
住民福祉の向上はもちろん、射水市の  
一体感を築き上げるうえでも極めて有  
意義であり、統合に当たった皆様の  
ご労苦に深く敬意を表する次第であり  
ます。

さて、近年の犯罪は、複雑・凶悪化  
の様相を呈し、さらには青少年が加害  
者に、あるいは被害者となる痛ましい  
事件が多発するなど深刻な社会問題と  
なっております。  
こうした社会情勢にあって、犯罪や  
非行のない明るい社会を実現するには、

罪を犯させない防犯体制の整備はもと  
より、罪を犯した人の立ち直りを支援  
する地域社会の理解と協力が極めて肝  
要であります。

射水市におきましては、防犯パトロー  
ル隊など地域における自主的な防犯活  
動に対する支援を積極的に推進するこ  
とにより、市民が安心して暮らせるま  
ちづくりに努めているところでありま  
す。

また、保護司の皆様には、地域にお  
けるネットワークづくり、更生保護の  
意義や理念を伝える啓発運動等におい  
て、その中心的な役割を担っていただ  
いているところであり、重ねて深く感  
謝を申し上げます。

終わりに、射水保護司会の今後益々  
のご発展並びに、保護司の皆様のご健  
勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、  
射水保護司会発足に当たったのごあい  
さつといたします。

## 新射水保護司会 発足にあたり

射水保護司会長

棚 元 理 一



今春、新しい射水  
保護司会がスタート  
し、私が会長職を勤  
めることになりました

た。保護司の皆様方や関係機関のご協  
力・ご支援をお願い申し上げます。

ご承知の通り新射水保護司会は、長  
い歴史を持った新湊市と射水郡の二保  
護司会が統合したものであります。各々  
の特徴を生かすため度重なる協議のす  
え、会則や事業計画・予算などが作成  
されました。私はその経過を踏まえ、  
六専門部会の活動を中心にしながら18  
年度事業を進めていきたいと思ってお  
ります。

ところで、最近青少年や若者達の間  
で驚くほど凶悪な犯罪が続発し、大き  
な社会問題となっております。なぜ平和  
教育を受けた彼等が、1970年代に  
アメリカ社会で流行ったような罪を犯  
すのでしょうか。「額に汗する苦勞を  
しないで、自分の思い通りになること  
が幸せ」という歪んだ考え方があるの  
かも知れません。若しそうならば、彼  
等に何時までも社会に甘えぬよう厳し  
く教えなくてはなりません。

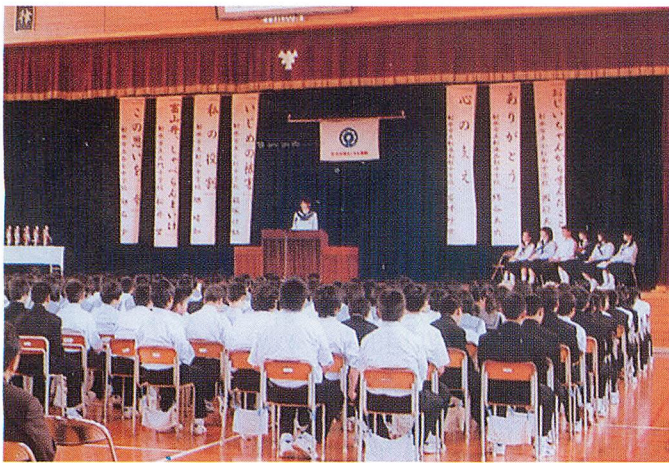
人間は色々な体験や試練を経て成長  
していきます。特に若い頃は大人の社  
会に反抗し、流行に浮かれがちなもの  
です。私にもこのような年代がありま  
した。しかし、若者達にも日本人とし  
ての道徳観や美徳は心の奥底に根付い  
ている筈です。少なくともそうであっ  
て欲しいと願わずにはいられません。  
浮かれ過ぎて罪を犯してしまった若者  
に、法務官は法の執行者として、また  
保護司は社会生活経験者の立場で更生  
を促し、今後の成長を温かく見守りた  
いものです。

## 第二十六回射水市中学生生活体験発表大会 綿谷さん県大会へ

射水市中学生生活体験発表大会は、去る五月二十九日、市小杉南中学校で開かれ、市内中学校七校の代表七名が日常生活を通して非行やいじめ等の発生しない楽しい学校、明るい家庭、住



新湊西部中学校3年  
綿谷真央さん



み良い豊かな社会づくりについて体験したことや決意等の意見を述べた。

第五十七回社会を明るくする運動の一環として行われ、発表者は、市内七中学校の各代表者で一人五分の持ち時間で七名が競いました。司会進行は、小杉南中学校生徒会が担当し、審査員は、射水市教育センター尾山逸郎所長他保護司会四名が審査を行いました。審査時間を利用してサクソフォン演奏者境文夫保護司の生演奏を全校生徒や保護者、出席者全員が鑑賞しました。

尾山教育センター所長の講評に続き審査結果発表をしていただきました。射水市代表に「ありがとう」と題し発表した新湊西部中学校三年綿谷真央さんが県大会出場に決まりました。

市代表として七月七日富山市ポルファートとやまで開かれた第四十五回富山県中学生生活体験発表大会に出場されました。

この他の発表者は次の皆さん。  
松井望(大門二年)富山弁、しゃべらんまいけ 鎧塚壮虹(小杉三年)いじめの被害 岩坪紗世(新湊南部二年)心の支え 堺晴加(射北三年)私の役割 國府真弓(小杉南二年)おじいちゃんから学んだこと 白石歩(奈古三年)この思いを、今

## 第45回富山県中学生生活体験発表大会 綿谷さん県知事賞に!

射水市中学生生活体験発表で

市代表として選ばれた綿谷真央さんは七月七日ポルファートとやまで開催された県中学生生活体験発表大会で県内各郡市町村代表十七名と共に発表し、病気療養中の親戚と接する中で、普段、当たり前だと思っている健康のありがたさを実感した経験を切々と訴え、多くの人々の共感を呼び審査の結果見事富山県知事賞に輝きました。

年々発表のレベルが上がっていること、内容も本当に自分が体験した出来事をもとに話されている事など大変素晴らしい発表であったとの講評がありました。



引き続き表彰に入り全員の代表として、綿谷さんが登壇、最高賞の知事賞を授賞しました。綿谷さんの少しはにかみながらも堂々とした態度に会場は大きな拍手につつまれました。



## 第57回『社会を明るくする運動』 射水市実施委員会開催される

例年七月は社会を明るくする運動の

協調月間であり、射水市においても今年初めて射水市他十七の関係諸団体で構成する実施委員会が開催され、五月三十一日射水市中央図書館に於いて委員長分家射水市長の挨拶、主唱者棚元射水保護司会長より挨拶、更に射水市のBBS会の新規発足に伴い、会の意義や会員の募集について説明がありました。その後各委員の紹介に引き続き議事に入り米澤総務部会長より平成十八年度(第五十六回)『社会を明るくする運動』実施結果報告があり、更に、平成十九年度(第五十七回)『社会を明るくする運動』実施の要綱・要領について協議、そのあと社明広報映画『ドキュメント・立ち直ること』を觀賞後、今年度の『社会を明るくする運動』が昨年の素晴らしい実績の上に更なる成果をあげるよう全員決意も新たにし、閉会となりました。



# 出来る事から始めよう

射水市更生保護女性会射水地区

会長 森 節子



更生保護ボランティアとして「できることから始めよう」を合意し活動しています。

昭和二十四年 発足以来この精神は絶えることなく受け継がれ、地域社会の求めているものを補え無理せず実行します。

朝、登校する子供たちに「おはよう」夕方家路を急ぐ人々に「おかえりない」「くろくさま」の一言が自然に口をついて出てくる地域がいいですね。そのような地域でありたいと願う二

# 更生保護女性会って、なに？

新湊更生保護女性会

会長 新 中 孝 子



昭和三十六年 更生保護婦人会が設立、境久さんが初代会長を務められた。平成三年笹治美治子さんが二代目会長、ミニ集会

や子育て支援地域活動モデル地区の指定を受け、他地区に先駆け実践、現在も継続する。平成十三年更生保護婦人会結成、四十周年記念誌「ゆずりは」を発行。平成十四年浦上淑子さんに三

百余名の会員で構成されているのが射水地区更女会です。会員は、地域の他のボランティアの方々と一緒に紙芝居、本の読み聞かせ、手遊び、手品や子供達の安全を守る「見守り隊」「愛レンジャー」などに参加し活動しています。

保護司会への協力、参加は学ばせていただくことが多々あり楽しみます。養得園への給食援助は年三回、主婦の腕前を発揮し美味でバランスのとれた夕餉の膳は入園の方々によるこんでいたでています。

ミニ集会、更生保護活動のPR、非行予防など私たちも学び成長すべく努力しています。特に不要品交換会では地域の皆様のご理解とご支援をいただいています。地域の皆様のご参加があることに感謝しています。

代目会長をバトンタッチされる。平成十九年浅学菲才な私が四代目会長としてスタートしました。更生保護女性会ちゃん付け、なんするがけ、難しいがけ、よく聞かれる言葉。女性として、母親として私達の住んでいる地域から犯罪や非行の起こらないよう見守る。

地域に根ざした更女として、次世代を担う子供達の支援・サポートする。そんなボランティア団体である。

日更女だよりに掲載されていた島津久子著の文章である。感銘したので紹介する。

このボランティア活動は、相手から

# 思いやりの心をもって

どうして日本の国は、良識を失ってしまったのでしょうか。

家庭で事件が起き、子供達が「いじめ」を苦に自殺するなど、信じがたい事があまりにも多い世の中です。

戦後、経済大国となった裏には、女性の社会進出や核家族化と少子化が家庭を不安定なものにした一因かもしれません。

それが共に自然破壊が進み、街は整備され、無機質な公園やビルが建ち並び、物があふれる近代社会へと変化してきました。

幼い頃、砂浜が遠々と続き、海で泳ぎバッタやトンボを追いかけ、夕暮れまで遊んだことがなつかしく思い出されます。又、母によく寺へ連れていかれ、地獄絵を見せては、「悪いことをしたら地獄におちるよ」とい

ましめられたものです。毎朝神棚と仏壇に手をあわせるのも日課でした。先日、立派な神棚を燃やしてほし

いと持参してきた若夫婦がいました。新築の家に、両親が買ひ与えたもの

物ももらうわけでもなければ、自分がそのために利益を得るものではなくとも、やっているうちに人から感謝されたり、喜んでもらったり、またその喜びを言葉で表してくれた時など、この返ってくるものが私たちの心の中に残っ

ていくのです。―中略―自分の周りにいる近所の子供を見ても、それを他人の子とは思わないで、悪いことをしそうな時に一声かける事が必要だと思います。

だったのです。古来より日本人は、海や山、川、土、木等に神が宿るものと信じ、自然を崇拜し、家の守りとして神棚を置き、先祖を敬ってきたのです。神棚のない所には、思いやりの心や目上を敬う心など生ずるはずありません。

現在私は、地域の更女のメンバーと共に保育園へ出向き「お茶ごっこ」をして子供達とふれあっています。季節の花や軸を見、「おさきに」「どうぞ」と思いやりの心をもって一時のお茶の世界にひたっています。

そんな子供達が神社での大祓の日、茅の輪くぐりを体験しました。左、右、左と輪をくぐり、小さな手をあわせている子供達。大きくなった時、何かの形で心に残っているものと同じ、目を細める私でした。

純粹な子供達を私達大人が手本になるよう良識ある行動をしなければと思いを新たにしています。

(編集子・大伴記)